

花き栽培のよくある相談

～ よくある質問、素朴な疑問等をまとめてみました ～



Q. 青森県で多く生産されている花は何でしょうか？

A. キク類、トルコギキョウ、アルストロメリアが青森県の三大品目で、夏秋期を中心に出荷されています。

Q. キクの開花調節技術について？

A. キクは夜の時間が長くなると(昼間の時間が短くなると)花芽をつける性質があり、夜間電照することで開花を抑えることができます。また、夜の時間が長くなると花芽をつけ開花する性質を利用して、本来であれば昼間の時間が長く、花の咲かない初夏に、夕方から翌朝まで、光を通さない資材を用いて遮光することで、花を咲かせることができます。

Q. 最近、目にすることの多いディスバッドマムってどんなキクですか？

A. ディスバッド(disbud)とは、除去するという意味の「dis」と、蕾の「bud」を合わせた言葉で、余分な蕾を欠いて一輪の花に養分を集中させることで、大きく豪華に仕立てた西洋ギクのことです。

Q. トルコギキョウの原産地はトルコなのですか？

A. トルコギキョウは北米からメキシコ北部にかけて自生しており、トルコとは関係ありません。トルコの名前の由来は、花やつぼみがトルコのターバンに似ているからとか、原種の花の色が「トルコ石」や、地中海の海の色(トルコブルー)を連想させるからなど、諸説あります。また、キキョウの仲間ではなく、リンドウ科に属する植物です。

Q. 購入した切り花を長持ちさせる方法とは？

A. すぐに花が萎れてしまうのは、吸水と蒸散のバランスが崩れているためと思われます。直射日光のあたるところや送風機のそばに置くのはやめましょう。また、活け水にバクテリアが増殖し、水を吸い上げる導管を詰まらせてしまうことがあります。その際は花瓶をきれいに洗って水替えし、切り口を数cm切り戻して生け直すことにより、萎れが回復する場合があります。また、市販の切り花延命剤を使用すると、活け水のバクテリアの増殖抑制と栄養分の補給により、花が大きくなり、長持ちします。

Q. 花の栽培や試験成果についてもっと知りたい？

A. 花き・園芸部では、キク、トルコギキョウ、アルストロメリア、その他多くの品目について試験しています。お気軽にお問い合わせ下さい。

Q. 草花の種を上手に発芽させるコツはありますか？

A. 予め発芽適温を調べ、発芽適温に合わせて種を蒔きましょう。用土は清潔性、通気性、排水性、保水性に優れていることが大切です。覆土は一般的には種の厚さ(薄い方)の2倍から3倍とします。また種の種類によっては、発芽に光が必要な好光性種子や、発芽に光を嫌う嫌光性種子があり、覆土の量や置き場所など工夫する必要があります。水やりは、一度、水を与えた種を乾かさないことが大切で、発芽してからも根が十分に育つまでは表土を乾かさない様に管理しますが、ある程度大きくなってきたら、表土が少し乾くくらいの間隔で灌水します。

Q. チューリップの育て方について教えてください

A. 庭植えの場合には、水はけが良く、日当たりの良い場所を選んで、10月に植えつけます。植え付け場所にはあらかじめ緩効性化成肥料を元肥として混ぜておきましょう。植えつけ間隔は球根の幅の2~3倍くらい、深さは球根の高さの3倍くらいにし、水やりは土の表面が乾いたらたっぷりと与えます。晴天が続く、用土の表面が乾燥した場合には芽が出ていなくても、与えて下さい。花が咲き終わったら、化成肥料を追肥し、葉が黄変するまで1ヶ月程度、日によく当て、過湿にしないように水やりをします。球根の掘り上げは晴天が続く日に行い、葉や茎を切り取り、土を落として、通風の良い日陰で1週間ほど干してから根や古い外皮を取り、ネット袋などに入れて植え付け時まで、涼しい場所で保管します。